

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年11月10日（土） 午後2時～午後3時30分
会 場 公務員住宅集会所（公務員住宅自治会）
天 気 晴れ

参加者 12人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆想定される震度6弱が発生した場合、ここの建物の場合には外に出て避難すべきなのかどうか。

☆まずは外に避難した方がよい。ここの地域の避難所は比較的に近い上野台小学校になるが、皆さんによく言っていることは、すぐに避難所に逃げるのではなく、まずは身近な安全な場所に逃げて自分の命を守ってほしいということ。また、すぐに避難所に逃げてしまうと助けてほしいという人の声も聴くことができない。現在、東京湾北部地震が今後30年間に発生する確率が70%と言われて一番心配される。

◆防災倉庫を自前で購入したが、戸数に対して中身はまだ足りない。また、何をどれだけ揃えたらよいのかがわからない。

☆市からの補助金があるので活用してほしい。トイレや水は必ず必要となるので、揃えた方がよい。震災時には水が出なくなり、停電の恐れもある。本市でも3・11の時には停電で、高層建物の給水塔が使用できずに水道が使用できない所があった。各家庭では、お風呂の残り湯はトイレにも使用できたりするので捨てずに残しておいてほしい。ただし、下水管が使用できなくなるとトイレも流せないなので、簡易トイレの備蓄もしてほしい。東日本大震災の被災地では、実際に簡易トイレの数が全然足りなかったり、容量が一杯になったりして穴を掘って用を足さざるを得なかったそうです。少し想定を高くして準備した方がよい。

◆震災等を想定し、鉄道会社の対応について協定などを結んでいるのかどうか。

☆大宮駅や浦和駅については震災対応について埼玉県が動いている。しかし、小さな駅については、市町村任せとなっている。また、鉄道会社はあまり協力的ではない。3・11の時にも250人以上の帰宅困難者の方がいて、市では公民館などを開放したりしたが、鉄道会社からは要請もなく、また、何もしなかった。

懸念していることは、災害が発生し皆さんが都内などの職場などにいた場合にふじみ野市の状況を知らせる方法がないこと。テレビ埼玉では、映る範囲になるが、Dボタンを押せばふじみ野市の情報が見られるようすることを検討している。

3. 11の時には、電話線は切れず携帯も使える状態であったが、全く繋がらなかった。そのため、当日市役所でも、市内や公共施設の状況が把握できなかったため、職員が現場に行って帰って来てから状況を報告するような事態となった。現在、12月議会の補正に衛星携帯電話経費を予算計上し、どのような状況でも連絡体制が取れるように準備をしている。また、災害時にも強いPHS電話を約100台用意し、全部長に持たせ、各公共施設にも設置しました。また、避難所などの公共施設に無線電話を配備します。

◆現在、自治会に消防隊があり、これを自主防災組織としたいと思っている。しかし、その構成員は仕事を持っていて常時地元には居られない。役員も同様。他の自治会の自主防災組織は、自宅に居られる方が担っているのです、どのように作ったらよいのか悩んでいる。

☆自主防災組織に普段地元に住られる方を副などにするとよいのではないかと。普段地元に住られる方でも外出して災害時にいないこともあるので、人的担保は必要です。隣接する自治会にも支援や協力について話をしてみます。地元で家族しか残っていないケースが想定されるので、災害時には近いフクトピアに逃げるなどの避難マニュアルを作っておくことも必要ではないのか。

◆フクトピアは、耐震性はあるのか。

☆あります。

◆この集会所は、1階建てで建物間の空間にあり安全と考えるが。

☆完全に安全とは言えません。一番怖いことは両方向で発生する火災で非常に危険なものなので、必ず2方向に避難できる経路を考えておくことが必要です。

また、高層建物の火災の場合、上昇した熱気が棟を超えて下りてくる場合があります、安全そうな場所でも危険な場合があるので注意が必要。

◆フクトピアの収容人数はどの位か。

☆600人位以上でも一時避難として収容できる。

食糧の確保については、1日2食として、1日分は市、1日分は県、そしてもう1日分は各家庭で確保して3日間、72時間を凌いでほしい。各家庭には冷蔵庫に野菜などがあり、お米もあるはずなのでそれを活用したい。その間に救援が来ることとなる。皆さんには、お米は無くなってから購入するのではなく、常時一定量確保できるように買い足すことをお願いしたい。

◆市の1日分は防災倉庫に確保してあるということか。

☆そのとおりです。現在、震度6弱の想定で1日経った後に避難所で生活する人は11,363人を想定し、1日2食で缶詰のパンになりますが約27,000食を確保している。自治会で独自にアルファ米を備蓄しているところもある。

◆子供が病気のため常時電源が必要となっている。3.11の時はたまたま入院中で問題はなかったが、そうでない場合には非常に心配である。市で発電機を貸してもらえるのかどうか。

☆3.11の時に、上福岡総合病院に医療機器対応のために5台貸し出しをした例がある。数に限りがあり個人に貸し出すことはできないが、その場合には保

健センターに連絡をしてもらえれば、そこを經由して対応します。また、計画停電の時には、医療関係で電気機器などが必要な方には連絡をして状況の確認をしています。

◆市では、医療機器が必要な人がどこに住んでいるのかなどを把握しているのか。また、名簿などはあるのか。

☆把握している。ただし、自治会には個人情報関係で知らせていない。現在課題となっていることは、高齢者などで一人では避難できない要援護者の把握ができていないこと。今度の新しい消防署に導入される高機能指令台は、火災等が発生して住所を入力すると近隣に住んでいる要援護者宅が表示されるようになっている。この機能を活用するため、市では把握している情報を消防署に提供する予定。

◆子供が口からは食事を食べることができずにミルクしか飲めない。市では1日分の食料を確保しているとのことだが、赤ちゃんなどのために粉ミルクを備蓄しているのかどうか。

☆備蓄しています。粉ミルクは消費期限が来る前に市の保育所で使用して新しいものを補充して循環させている。おむつもあります。現在、困っていることは、アレルギーのある子への食糧備蓄の対応で、今後は卵やそばがだめな方に対応できるものを備蓄していきたい。しかし、費用がかかることが課題。食糧等の備蓄に関しては、掛け捨てにしないことで、循環させることが大切。

☆市町村アカデミーで北海道から石垣市までの市町村長が参加した研修に行ったが、その時に言われたことは、津波がない内陸はよいということ。また、その時の総務省の方の話では、想定外はいくらでも高くできる。しかし、30mの津波を想定したら対策はできないとしか言えない。その恐れがある時にどう対応できるかが大切で、そこに住んでいる人がそのことをどう意識して対応できるかに尽きると言われた。私はタウンミーティングで、各家庭での食糧確保の協力やすぐに避難所に逃げるのではないことなどを訴えて、市民の災害に対する意識を高めることが非常に有効だと考えている。

今までの市民との対話で、公助は1割しか当てにはならないとの話をした時に誤解を受けると思っていたが理解をしていただけている。直接訴えることの重要性を感じた。よく公務員や行政はバッシングされているが、市民にちゃんと事実が伝わっていないと感じる。情報を伝える方法がHPや市報しかないためか、報道などで情報が歪められて伝えられていることなどもあるが、情報が直接市民に伝わっていない感がある。このことは、行政の責任でもある。

この間も市民から10万都市でなぜプールがないのかと苦情を言われたことがあったが、今はレジャープールを作れる状況ではなく、公的な支援が必要な人は多く、もっと優先順位の高いものが他にもあることを話すと納得をしてもらえる。